平成２１年版

水稲早生奨励品種　祭り晴 栽培暦（中山間地　５月中下旬植用）

大阪府環境農林水産総合研究所

月	4月			5月			6月			7月			8月			9月			１０月			11月
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上
生育ステージ				は出種芽期	緑化期	硬化期	**田植期**	活着期		分げつ期			最高分げつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	**出穂期**	穂揃期		登熟期		**成熟期**		
				育苗			活着	有効分げつ			無効分げつ		幼穂形成・穂ばらみ			登熟						
水管理					入水代かき				やや浅水			中干し	間断かんがい		湛水		間断かんがい		落水			
施肥				土壌改良資材	基肥							穂肥①		穂肥②							土つくり	
除草剤							初中期一発剤					I剤	後期剤Iz									
病害虫防除						箱施用				葉いもち				コブノメイガ ウンカ ニカメイチュウ 穂いもち		カヨコバイ ムシ		ウンカ				

○「祭り晴」は短稈で優れた耐倒伏性を持つが、食味を低下させず病害虫の発生を抑えるために基肥窒素は10aあたり５～６ｋｇ以内とする。
○　穂肥は10aあたり窒素３～４ｋｇ以内とし、出穂21日前～10日前にできれば2回に分けて施用する。基肥と穂肥トータルで10aあたり窒素８～10ｋｇ以内とする。
○　いもち病耐性に優れるが過信は禁物なので、特に中山間では箱施用剤および本田防除を励行すること。
○　籾の休眠が深めで発芽が遅く、苗の伸びも遅いので発芽器の温度に注意する。ただし育苗時の過度の高温による徒長苗には注意する。
○　刈り遅れのないように適期収穫すること。（穂の籾のうち根元の2割程度がまだ帯緑した時期が適期。出穂からおおむね45日くらい）